

教材・支援機器活用実践事例【ICT】

活動場면을共有するためのICT活用 「リモート通信での野外活動への参加」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校 中学部1年（通常学級）
	障がい名等	病弱
	子どもの実態 （学習上又は生活上の困難さ等）	・健康状態は良好であるが、ペースメーカーを使用しているため、活動量が多い場面では疲労感を残さないように活動を制限する場面がある。
授業について （教材・教具を使用した授業や指導場面）	教科名等	特別活動（学校行事）
	単元(題材)名	題材名「宿泊学習」（オリエンテーリング）
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を頼りに山中に設置された暗号カードを探し、集めたカードを組み合わせる暗号を解読する。 ・自然に親しみながら仲間と協力することで、生きる力を育む。
教材・教具支援機器について	教材・教具支援機器	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Meet をつないで野外活動に参加する 
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <p>○自分の健康状態に合わせたやり方で活動場면을共有し、同じ班の生徒とコミュニケーションを取りながら、カードを組み合わせる暗号を解読する活動（オリエンテーリング）に参加する。</p> <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内にいる教師が「今どこにいるの？」や「見つけたカードを見せて」等、野外活動に参加している生徒に言葉を掛けることで、対象生徒とのコミュニケーションを促すようにする。 ・野外にいる教師も「今〇〇〇に着きました」と状況を伝えたり、「〇〇君、暗号の答えはわかった？」と問い掛けたりして、間接的でも参加していることを意識させることで、活動の学習効果を高めるようにする。
	材料・作成方法等	タブレット端末、アプリ（Google Meet）、ポケットWi-Fi
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をもって意欲的に活動に参加することができた。 ・同じ班の生徒や教師とコミュニケーションを取り、同じ場所にいなくても班の一員としての所属意識を高め、活動することができた。